

ざざっと! ウィスキングの日本史 ※手当たり次第調べてみました!



そもそもウィスキングってどこからやってきたの? いつから日本で始まったの? と疑問に思い、手元にあるサウナ関連の書籍や資料、しらかばスポーツさんや濡れ頭巾ちゃんのブログを元に、まとめました。

日本人はじめてのウィスキング体験

1924年 岡部平太が本場フィンランドでサウナ、ウィスキングを受ける。

1925年 岡部平太が『世界の運動界』(目黒書店)で本場のフィンランドでのサウナ、ウィスキング体験を初めて日本に紹介する。

大河ドラマ「いだてん」の主人公、金栗四三の盟友であり、科学的トレーニングを導入し、コーチとして名選手を生み出した人物。

日本にフィンランド式サウナが上陸

1960年 フィンランド大使館内にフィンランド式サウナが設置。

1964年 第18回オリンピック競技大会が東京で開催。選手村にフィンランド式サウナが設置。

1966年 フィンランド式サウナ「スカンジナビアクラブ」がオープン。

水風呂を最初に作ったのが「スカンジナビアクラブ」。「スカンジナビアクラブ」からサウナ・ロウリュ・水風呂・お風呂など日本の温浴施設のスタイルが始まったと言われている。

スカンジナビアクラブから、本格的なサウナが流行ったんですよ。でも、経営者にしても客にしてもサウナの正しい入り方を誰もがきちんと分かってないんですよ。そもそもサウナは繁華街に出来るんです。すると、お客はしこたま呑んで、酔っ払った連中が結構入ってくる。そういう連中がいたずら半分に、ストーブに桶ごと水をザブんと掛けちゃったりする事件が頻繁に起きた。蒸気がいっぺんに湧き出してしまうから、室内にいた人たちが火傷してしまう。そんなこんなで、どの施設も禁止になってですね、ロウリュが消えました。

草薨洋平『日本サウナ史』(株式会社渋谷文泉閣)p280-281から引用

なんと! 昭和の時代はセルフロウリュができる施設が多かったのだ。羨ましいやら、もったいないやら…

再びロウリュブームの兆し

2005年 METOS社のikiヒーターの出荷が増え、ロウリュのできる施設が増え始める。

本格的に日本にウィスキングがやってきた?

2010年 5月「第15回国際サウナ会議」東京で開催@東京ドームホテル

「ランバスティング」という言葉でリマス氏(リトアニア・スチームバス・アカデミー会長)がウィスキングを紹介する。

“Lambassting” (ぶん殴る) という意味でウィスキングと同義。

2012年 9月ウェルビー名駅にて「ヴィヒタ×ロウリュ」サービスの開始

木桶の水に浸けたヴィヒタをサウナストーブに水をたらし、アロマの蒸気があがってきたら天井の蒸気と熱をヴィヒタに含ませて、客の肩を圧迫→背中をカサカサと刺激→叩き(1分)

10月1日リトアニアのサウナパフォーマンス「ランバスティング」として男性フィンランドサウナ室でウィスキングが行われる。@スカイスパYOKOHAMA @ニュージャパンスパプラザ(大阪)
スカイスパYOKOHAMAのブログ(<https://www.skyspa.co.jp/topics/19763/>)
↑日本で初めてウィスキングが行われたのはこの日だと思われる。

11月13日フィンランド・北極圏・エストニアのサウナ施設の視察が行われた。

日本サウナスパ協会のウェルビー米田社長・太古の湯グリーンサウナの加川社長は現地でのウィスキングやヴィヒタの扱いを体験。(参考: 温浴業界の総合情報誌SAUNASPA 2012年11月号)
→太古の湯にヴィヒタが設置された。

2014年 6月「第16回国際サウナ会議」@リトアニア ←この時の様子はサ道3巻で描かれている。